

彼女は 家計を助けるために 高校入学してから アルバイトを始めた

次は アルバイト学生 B子さんのお話

あ！ 私もー！

**いらっやいませー！！**

「きゃー!!!」

お客さんに 「ありがとうございます」 って言われたり バイト仲間と いると楽しくて!

そしてバイトに 「ハマっちゃったんだ」

**留年決定**

もう 欠時オーバーで 進級できないぞ!

すみません！

**また遅刻！**

でもだんだん 学校の遅刻や 欠席も増えてきて

そして ついに

おいおい このまま 俺と同じ 中退者になるんじゃないや...

ううん！ B子さんは 勇気を出して 養護の先生に 相談したんだ

私、留年する くらいなら 学校をやめた方が いいんじゃないか？

ん〜...

これから先 家族を支えるために 高校は卒業して おかなきや 将来のためにも大切よ

アルバイトを 始めたのは 「家計を支えるため」 だったんだよね？

彼女が学校をやめずに 留年する道を 選んだ

先生!

留年しても 立派に社会で活躍 している先輩は たくさんいるわ!

一生のうち、 一年の留年なんて 恥ずかしいこと じゃない

今は無事に 卒業して 仕事一筋!

あの時は 一つ下の後輩たちと 同年代なんて 嫌だったけど、

今にして思えば やっぱり高校を 卒業しておいて よかったです

これから やり直す方法は いくらでも 見つかるよ!

あの時俺にも 勇気があれば 違った道が あったのかな？

ちょっとまって!! **高校をやめてしまう前に!**

**Q** 先生から、「このままだと、学校にいられない」って言われちゃった…。

**A** 高校をやめてしまう前に相談しよう!  
 先生の話をよく聞かないと、本当の状況はわからないことがあります。「このままじゃ、だめだよ」とはっぱをかけているだけなのか、「退学を勧められている」のか、「退学処分」なのか…。まず、相談できそうな先生を探してみてください。必ずしも担任の先生や部活の顧問の先生でなくてもかまいません。話しやすい先生や、保健室の養護の先生、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど。勇気を出して、状況や自分の気持ちを話してみてください。それで、道が切り開けた人もいます!その他に、地域の大人、中学の時の先生など、この人なら話を聞いてくれるかも…という人がいたら、ぜひ、相談してみてください。自分が悪いから…と思っても、遠慮したり、気おくれしたりすることはありません。特に、高校生の年代は、間違えることもたくさんあるし、やり直すチャンスもたくさんあります。たいていの大人は、頼られるとうれしいものですよ!

**Q** 高校は、どんな時に進級できないの?

**A** 高校には、進級のための条件があります。どんな時に進級できないかは、学校によりますが、あらかじめ決められています。例えば、ある学校では…

- 授業を1/4休むと欠時オーバーで進級できない。
- 同じ教科のテストで1年のうち3回とも赤点だと進級できない。

「このままじゃ、進級できない」と先生に言われても、あきらめしないで、どうすれば進級できるのか、よく聞いてみましょう。学校によっては補習をしてもらえることもあります。

**Q** それでも高校にいられない・いたくない時には、どうすればいいの?

**A** 高校に在籍中であれば、転学(いわゆる転校)という道もあります。ただ、同じ学校にいるのと比べて、転学は、自分に合った学校を探すことや、手続き条件などを調べて準備することが必要です。 →II-1 それでもだめなら転学を考えよう。

大人からのメッセージ

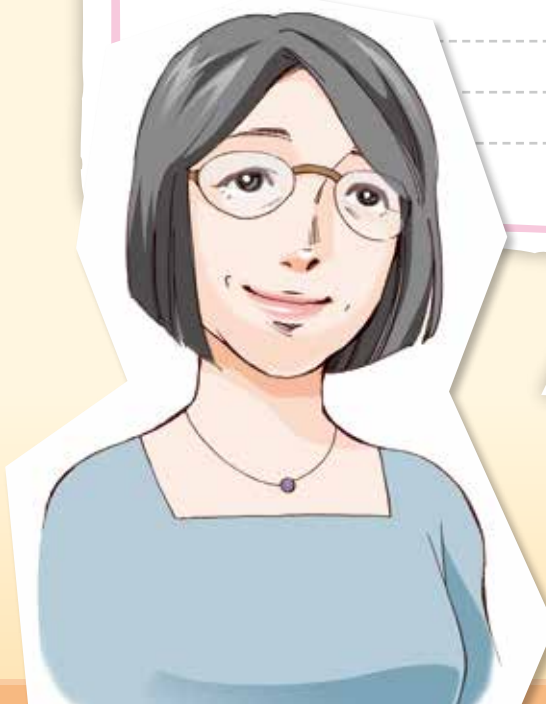
授業がわからなかったり、家の事情で勉強どころではなかったり、バイトにはまって欠席が増えて、「このままじゃ留年だよ!」と言われてしまった。そういうときはエネルギーが落ちていて、何もかもダメなように思えるものです。「もう退学するしかない」と。

でも、あわてて決めないでください。本当にダメなら、親がそう言われます。まだ先生があなたに話しかけているなら、あなたが言ってほしい一言があります。「もう何をしてもダメなんですか?」そして「進級したい」。

先生からは条件や課題を出されるかもしれませんが、「そんなの無理!」と言わないで。完璧にできなくても、努力する姿が認められることも多いし、友だちに助けてもらってもいいのです。

大切なのは“なりたい自分”をイメージすること。「英語ができればいいな」とか、「遅刻ゼロにしたい」とか…。今はできないことができるようになる第一歩はこういうつぶやき。はじめの一歩がふみ出せれば、二歩目も見えてくるはずですよ。

高校教諭



大人からのメッセージ

中学校は、船出した皆さんにとっての港です。  
嵐の時は、遠慮なく戻り、そしてそこからもう一度  
新たな旅に出てください。

「こんなはずではなかった」

「高校を続けられそうもない」

「単位が足りなくて留年しそう」

「どうしたらいいかわからない」

高校に入って壁にぶつかった時には、自分が卒業した中学校に相談に来てください。順調な時やよい報告ができる時なら、気楽に卒業した中学校に足が向くけれど、「高校で上手くいかなかった」なんて話をしに行くのは、気が重いかもしれません。でも、先生たちは、困った時悩んでいる時にこそ来てほしい、力になりたいと思っているのです。だから、どんな時でも、遠慮しないで、安心して自分の母校に相談に来てください。高校生活をもう一度軌道に乗せるための方法を一緒に考えたり、場合によっては、新しい高校でやり直す方法についてのアドバイスもできます。

早く相談した方が、悩みも早く解決できるはずです。

中学校教諭



大人からのメッセージ

高校をやめたり、やめそうになった先輩たち

—今は社会人となった私の教え子たちが語ってくれること

- 困ったり、悩んだとき自分の力だけでなんとかなると思うな
- 先生やまわりの大人に頼る、ちゃんと甘える、がんばるには支えが必要
- 一人前のおとなになるということは頼り、頼られる人になること
- わからないことをわからない、教えてと言えたとき道がひらけた

みなさんの年代は迷ったり、悩んだりするのが「仕事」のようなもの。誰もがそうして大人になっていく。皆さんから「教えて、助けて」と言われることを待っている大人たちがいる。

高校をやめたいと思った先輩たちを  
支援してきた元高校教諭

